

# 基本目標 2

## 希望を持ち、豊かな心を育むまち

【教育・文化・スポーツ】



### 《基本施策》

- 1. 学校教育の充実
- 2. 生涯学習の振興
- 3. 芸術・文化の振興・歴史の保存
- 4. 生涯スポーツの振興
- 5. 交流活動の推進

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS



## 現状と課題



- 国際化、高度情報化、少子高齢化等、著しく社会経済環境が変化する中で、時代の変化に柔軟で的確に対応できる「生きる力」を身につけるためにも確かな学力、豊かな心、健やかな体を育てることが重要となっています。
- 本町では、確かな学力を身につけるために、基礎的・基本的な学習内容の定着を図るとともに、指導方法の改善を行っています。また、各学校では横断的なカリキュラムを作成し、各教科や人権教育と関連させた道徳教育を推進しています。
- グローバル社会を生きる力を育むため、外国語指導助手(ALT)を3名配置し、外国語教育を推進しており、これから求められる外国の人とのコミュニケーション力の向上を図っています。また、プログラミング教育を推進しており、プログラミング的思考力はもちろん、情報活用能力の育成も目指しています。
- 町内の幼稚園・小学校・中学校の普通教室、特別教室及びその他の教室への空調機器の新設及び更新を行い、子どもたちの学習環境を整えています。
- 学校給食として、本町の特色である「食堂給食」を充実させており、異年齢の集団での活動を通して、互いに思いやる心の育成やコミュニケーション力の向上を図っています。
- 特別支援教育として、各小中学校に知的障害児学級、自閉症・情緒障害児学級を設置し、様々な障がいのある子どもたちが安心して学習できる環境を整えています。

## 基本方針

子ども一人ひとりを大切にしたきめ細かな指導の推進により、「生きる力」の確実な育成、子どもたちを「認めること」を大切にした非認知能力の育成、基礎的・基本的な学習内容の定着と家庭教育の充実に取り組みます。また、学校・家庭・地域の連携による開かれた学校のもと、地域ぐるみで安全・安心な教育環境の整備を進めます。

### 評価指標

| 指標                       | 現状値             | 前期目標値           |
|--------------------------|-----------------|-----------------|
| 毎日朝食を食べると回答した子どもの割合      | 小6 83.3%(令和元年度) | 小6 90.0%(令和6年度) |
|                          | 中3 83.7%(令和元年度) | 中3 90.0%(令和6年度) |
| 将来の夢や目標を持っていると回答した子どもの割合 | 小6 68.6%(令和元年度) | 小6 80.0%(令和6年度) |
|                          | 中3 48.9%(令和元年度) | 中3 60.0%(令和6年度) |
| 自分にはよいところがあると回答した子どもの割合  | 小6 81.3%(令和元年度) | 小6 90.0%(令和6年度) |
|                          | 中3 88.0%(令和元年度) | 中3 90.0%(令和6年度) |

## 個別施策

### (1) 「生きる力」の確実な育成

生きる力を育むため、より一層の道徳教育・人権教育の充実を目指します。徳知体のバランスの取れた子どもを育てるため、『里庄町各園校の卒業期における「めざす子どもの姿」』として、それぞれの卒業期の子どもの姿を設定し、幼稚園から中学校までの11年間を見通した教育を町全体で行っていきます。

子どもたちに「自分と向き合う力」、「自分を高める力」、「他者とつながる力」等を身につけるための取組を行います。この活動を通じて、子どもたちの非認知能力を培っていきます。

体力づくりやスポーツ活動を推進し、健やかな体を育成するとともに、子どもの健康の保持・増進に努めます。

特色のある学校給食の充実を図るため、給食を児童・生徒の学習・交流の場として位置づけ、健康や体力づくりのために安全・安心な給食の提供を行います。

#### 【主な取組】

◆生きる力の育成

◆体育・健康教育の推進

◆心の教育の推進

◆学校給食の提供

### (2) 特別なニーズに対応した教育の推進

様々な教育課題に対応するため、個に応じた教育・支援を進めます。

特別支援教育では、特別支援学級の整備を進めるとともに、通常学級に在籍する言語障がいや自閉症・情緒障がいがある児童に対し、浅口市と連携して通級指導(ことばの教室・あすなろ教室)を行います。

園児・児童・生徒のいじめ・不登校・就学の問題では、教育相談員を配置することで、相談体制を整えます。また、学校に行きにくい児童・生徒には、適応指導教室(浅口大簡塾)への通塾を行えるようにすることで、学校への再登校を目指します。

子どもたちの進学時には、環境の変化や学習システムの違いによる戸惑いや不安がみられるため、幼稚園・小学校・中学校のさらなる連携を図るとともに、学校生活支援員の配置等、学習支援の充実を図ります。

#### 【主な取組】

◆特別支援教育の充実

◆相談・指導体制の充実

◆幼稚園・小学校・中学校連携の推進

### (3) 時代の要請に応える質の高い教育の推進

急速に進展する国際化に対応し、グローバル社会を生きる力を育成するため、外国語指導助手を有効に活用し、外国語教育の推進を図るとともに、ICT活用等、情報教育の充実を図ります。

情報化、地球温暖化、少子高齢化の進行等の時代の変化に対応するため、情報教育、環境教育、福祉の心を育む教育の推進と充実に努めます。特に情報教育を推進するため、授業でのICT機器の活用や、児童・生徒がパソコン等に触れる機会の充実に努めます。

学校は児童・生徒等にとって一日の大半を過ごす学習・生活の場であるとともに、地震等の非常災害時には避難場所等の防災拠点としても重要な役割を担っていることから、老朽化への対応等、安全で安心な学校施設の整備を図ります。

#### 【主な取組】

- ◆グローバル社会を生きる力の育成
- ◆学校施設の整備・改善

- ◆時代の変化に対応する教育の充実

### (4) 学校・家庭・地域の連携による安全・安心な教育環境の整備

人間形成における家庭の重要性について意識啓発を図るとともに、子育ての悩みや不安を解消するため、子育て講座や乳幼児学級の開講、相談等の活動を推進します。

家庭教育支援の充実を図るとともに、放課後や長期休暇中の子どもの居場所づくり等の取組を推進します。さらに、子ども安全パトロール員や関係機関等と連携し、子どもの安全確保を図ります。

子どもの望ましい職業観・勤労観を育成するため、中学生の職業体験等のキャリア教育の取組を充実します。

「開かれた学校づくり」と「特色ある学校づくり」を進めるため、学校評議員による意見交換の場を継続するとともに、今後はコミュニティスクールの導入についても検討していきます。

#### 【主な取組】

- ◆家庭教育の充実
- ◆職業体験等の充実

- ◆学校・家庭・地域の連携による安全・安心な教育環境の整備
- ◆開かれた学校づくりと学校の自主性・自律性の確立

## 基本施策 2-2

# 生涯学習の振興

### 現状と課題



- 近年、少子高齢社会の進行や家庭・地域の教育力の低下、社会の変化に伴う町民の学習ニーズの多様化等の新たな状況に対応した生涯学習の推進が求められています。
- 本町では、平成28年度に「里ちゃんチャレンジクラブ」を「さとしょう未来塾」に名称を変更し、地域の子どもは地域で育てることを目標として、地域や企業の協力を得ながら、子どもたちの活動の機会を図っています。また、「寺子屋」事業や「冒険キャンプ」、「暁天座禅」等を通じて、人と人とのつながりを深める取組にも重点を置いています。
- 生涯学習として、各種団体が自主運営の中でそれぞれの持ち味を発揮し、講座の充実を図っています。文化協会においては産業文化祭で「芸能祭」として、虚空蔵大学では「学習発表会」として、成果を披露しています。
- 本町の特色ある取組として、世界に誇る物理学者である仁科博士の生誕の地として、科学技術・科学教育を推進しており、毎年、理化学研究所を代表する講師による講演会を実施し、好評を得ています。また、中学生、高校生を対象としたロボットコンテストでは、「ものづくりと技と創造性」を競う競技として開催しています。また、(公財)科学振興仁科財団を通じて、町出身の物理学者・仁科芳雄博士の足跡をたどる中学生国内派遣事業を実施しています。

### 基本方針

町民が生涯を通じ、主体的に学習機会を選択して学び、その成果を社会に活かしていくことができる「生涯学習によるまちづくり」の実現を目指し、いつでも、どこでも、誰もが学び、楽しみ、その成果が豊かな地域づくりに反映される生涯学習の推進を図ります。

#### 評価指標

| 指標             | 現状値             | 前期目標値          |
|----------------|-----------------|----------------|
| 図書館の貸出図書数      | 76,000冊(平成30年度) | 76,000冊(令和6年度) |
| 東西公民館の講座数      | 2回(令和元年度)       | 2回(令和6年度)      |
| 青少年教育の講演会開催数   | 1回(令和元年度)       | 2回(令和6年度)      |
| 親育ち応援学習プログラム回数 | 5回(令和元年度)       | 6回(令和6年度)      |

## (1) 生涯学習支援体制の整備

さとしょう未来塾による「寺子屋」事業や「さとちゃんチャレンジ・ワールド」事業における「冒険キャンプ」、「暁天座禅」、「わくわく科学ランド」等により地域住民を交えた子どもたちの様々な活動機会の拡大を図ります。

地域文化創造拠点である総合文化ホール、町民の自主的な学習の拠点である中央公民館、図書館、科学教育の拠点である仁科会館の利用促進に努め、町民の生涯学習、コミュニティ活動の場として活用を促進します。

世界に誇れる科学者誕生のまちとして(公財)科学振興仁科財団と連携して、積極的に仁科博士の偉業を広く内外にアピールし、理化学研究所里庄セミナー、仁科芳雄博士生誕記念科学講演会、ロボットコンテスト、中学生国内派遣事業等を実施します。

また、先人に続く人材を育成するため、科学に関心を持つ中学生が増えるよう、(公財)科学振興仁科財団等での事業を充実させ、本町ならではの特色ある教育の場について検討します。

活字離れが深刻化する中、子どもを中心とした読書の習慣化を促進するとともに、図書館、学校図書館、公民館等との連携を図ることにより、町民の読書環境の充実に努めます。また、ブックスタート事業やボランティアによる読み聞かせ等、読書を行う機会、きっかけづくりに努めます。

子どもの健やかな成長とともに、互いに子育てについて学び合い親として育ち合うことを支援する「親育ち応援学習プログラム」を実施することで、家庭の教育力の向上を図るとともに、社会全体で子どもを育む気運を高めていきます。

### 【主な取組】

- ◆生涯学習支援体制の整備・充実
- ◆生涯学習の情報提供・相談体制の整備
- ◆生涯学習施設の利用促進・充実
- ◆科学技術・科学教育の推進
- ◆子どもの読書活動の充実
- ◆家庭教育への支援

## (2) 地域に根ざした公民館活動の活性化

各地域の課題を地域住民と行政の協働のまちづくりによって解決する「地域力」の向上を図るため、公民館を拠点として地域課題をテーマとした学習機会を設け、地域住民が様々な地域活動に積極的に参加しやすい環境整備を図ります。

健康づくり、地域福祉、子どもや青少年の健全育成、地域づくり、自主防災、防犯、環境保全等の地域課題をテーマとした学習機会・プログラムの提供を図ることにより、地域に根ざした生涯学習の促進に努めます。

### 【主な取組】

- ◆地域課題の解決の場としての公民館活動の活性化
- ◆地域課題、社会貢献活動をテーマとした生涯学習の促進

### (3) 青少年の健全育成

学校・家庭・地域が一体となって、ボランティア活動やキャンプ等の自然体験や様々な社会教育活動を通して、社会性を育み、青少年の自立と協調意識の向上を図ります。

高度情報化の進展の中で、インターネット利用等に伴う事件に子どもたちが巻き込まれるケースが増えていることから、情報モラルの教育を通じて子どもの健全な育成を図ります。

青少年の活動に対して、指導・助言等を行う人材の確保、指導者の育成を促進するとともに、青少年の育成活動を行う関係団体を支援します。

警察、学校、補導関係機関等との緊密な連携により、補導活動の推進を図るとともに、青少年に対する相談支援体制の充実に努めます。

#### 【主な取組】

◆青少年の自立支援

◆青少年健全育成団体の育成

◆情報モラル教育の推進

◆中学生を対象とした消費生活講座

### (4) 成人・高齢者教育の充実

多様化、高度化する町民の学習要求に応えるため、虚空蔵大学、里庄カレッジクラブ、文化協会等で開催される各種教室・講座の充実に努めるとともに、活動成果の発表機会等の充実に努めます。

「教育を考えるつどい」において講演会を実施しており、今後はPTAや教育関係者だけでなく地域住民にも参加してもらえるよう、集客方法について検討します。また、「1日学校公開」についても未就学の保護者や地域住民からも好評を得ており、今後も園や学校と協力しながら継続します。

#### 【主な取組】

◆学習機会の充実

◆学習内容の充実



里ちゃんチャレンジ・ワールド「わくわく科学ランド」

## 現状と課題



- 日常の暮らしの中に潤いと心の豊かさをもたらす芸術・文化活動は、生涯学習の一環として、人と人、文化と文化、地域と地域の交流を生み出し、地域社会の活性化を促進します。
- 文化協会や虚空蔵大学等の各種団体が自主的に文化活動に取り組んでいます。また、総合文化ホールは、町民や中学校・近隣高校の吹奏楽部等の成果発表の場として活用しています。
- 本町は、大原踊り等の伝統芸能の文化があり、それらを通じて、世代間交流が図られています。一方で、伝統芸能の後継者の育成が課題となっており、今後も町独自の行事を大切にするとともに、伝統芸能を次世代に継承していく必要があります。

## 基本方針

文化拠点である総合文化ホール等の各施設の文化活動情報を充実させ、利用促進を図ります。

里庄町の歴史・伝統・文化等に直接触れる体験を通し、子どもたちの郷土に対する理解を深め、豊かな感性や心の育ちを促し、シビックプライドの醸成を図ります。

文化活動の裾野の拡大を図るため、地域で行われている文化活動との連携を図り、新しい個性的なイベントを創出するとともに、町民の文化遺産保護意識の高揚を図ります。

### 評価指標

| 指標               | 現状値           | 前期目標値         |
|------------------|---------------|---------------|
| 文化ホール年間自主事業数     | 2件(令和元年度)     | 2件(令和6年度)     |
| 文化ホール年間自主事業観客動員数 | 1,800人(令和元年度) | 1,800人(令和6年度) |
| 文化ホール年間使用数(貸館)   | 20件(令和元年度)    | 25件(令和6年度)    |

## 個別施策

### (1) 芸術・文化活動の振興

文化協会や虚空蔵大学、里庄カレッジクラブ等と連携し、町民の自主的な文化活動や芸術活動への取組を促進するとともに、文化活動に携わる人々の相互交流を促進します。

総合文化ホール、福社会館、中央公民館等を活用し、文化協会や虚空蔵大学、里庄カレッジクラブ等と連携して、町民の文化活動の発表機会の拡充を図ります。

町民の要望や文化ホール運営委員、町外の専門家の意見を参考にしながら、新しい個性的なイベントの創出や総合文化ホールの活用方法について検討するとともに、地域の連帯感から生まれた新しいイベントの支援に努めます。

#### 【主な取組】

- ◆自主的な文化活動の支援
- ◆新しいイベントの創出

- ◆町民の文化活動の発表機会の拡充

### (2) 文化施設の利用促進・整備

本町の文化拠点である総合文化ホール、図書館、仁科会館については、各施設の情報を実施・発信し、利用促進を図ります。

町民が身近な場所で気楽に自主的な活動ができるよう、公民館等の機能強化に努めます。

老朽化がみられる施設は、計画的に補修・維持管理を図ります。

#### 【主な取組】

- ◆文化拠点の利用促進
- ◆老朽施設の補修・維持管理

- ◆公民館等の機能強化

### (3) 文化遺産の保護・保存・活用

町内に存在する未指定文化財等を調査し、新たな文化財の指定について検討します。また、里見山中遺跡の貴重な出土品を歴史民俗資料館に展示し、資料として活用します。地域の歴史研究のため、学芸員を配置します。

展示されている仁科・小川両博士関係の資料、里庄町の焼き物「大原焼」、民具等の資料を保全し、本町の歴史・文化についての理解を深めます。

#### 【主な取組】

- ◆文化遺産の継承・活用
- ◆文化財の調査・展示

- ◆文化遺産保護意識の高揚
- ◆歴史民俗資料館の充実

## (4) 地域文化の振興

地域への郷土愛を育み、地域に根付いた伝統芸能を後世に伝えるため、子どもから高齢者まで世代間の交流を深めるとともに、後継者の育成を図り、文化遺産の継承・活用に努めます。

### 【主な取組】

◆まつりや伝統芸能の継承



大原踊り

## 現状と課題



- 近年、健康志向の増大に伴い、健康の維持・増進に対する関心が再認識されるようになり、生涯にわたりスポーツにかかわり健康や生きがいづくりに取り組むことが求められています。
- 国では、スポーツ立国の実現を目指しており、2020年の東京オリンピックを契機に、様々なスポーツ種目への関心が高まっています。
- 本町では、体育協会が中心となり、スポーツ大会やふれあいマラソン大会を毎年開催しています。また、厚生体育大会では、誰もが気軽に参加できるよう、種目の見直しを行いながら実施しています。これらのスポーツ大会は、誰もが一緒に参加できるよう配慮しながら実施しています。さらに、令和元年度から「晴れの国岡山」駅伝競走大会に「里庄町チーム」として参加することで中学生から成人までのマラソン競技への関心を高めていきます。
- 子どものスポーツ振興として、柔剣道スポーツ教室をはじめ、少年野球や少年サッカー等の専門的なスポーツや「さとしょう未来塾」と連携し、学童グラウンドゴルフ交流会を実施する等、子どもたちがスポーツに親しめる取組を進めています。
- スポーツ指導者の育成・確保については、それぞれの団体で、養成や育成の研修事業への情報提供が行われています。一方で、指導者の高齢化が進んでおり、次の世代からの指導者確保が重要課題となっています。

## 基本方針

町民の誰もが、生涯の各時期において、それぞれの体力、年齢、目的に応じて、いつでも、どこでも、誰とでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ環境の充実を目指します。

### 評価指標

| 指標           | 現状値            | 前期目標値          |
|--------------|----------------|----------------|
| スポーツ事業の参加者数  | 720人(令和元年度)    | 5,000人(令和6年度)  |
| スポーツ施設利用者数   | 50,800人(令和元年度) | 51,000人(令和6年度) |
| 学校体育施設夜間利用者数 | 7,700人(令和元年度)  | 8,000人(令和6年度)  |

## (1) 生涯スポーツの普及・振興

スポーツ関係団体は、地域全体でスポーツに取り組む方向性を示し、大会の開催にあたり、地域住民や各種団体の大会運営への参加を促進し、町民・団体との協働によりスポーツ行事を実施します。

スポーツを通じて体力の向上と健全育成を図るため、関係団体と連携し、子どもにスポーツの場や機会を提供します。

働く世代・子育て世代に対して、身近にスポーツに触れる機会が得られるよう、工夫した事業を展開します。

子どもから高齢者に至るまで気軽にスポーツが楽しめるよう、体育協会やスポーツ団体と連携してスポーツ教室・イベントを開催し、自主的なスポーツ活動を促進し、各種スポーツグループやクラブの育成を図ります。

### 【主な取組】

- ◆地域全体で取り組むスポーツの振興
- ◆子どものスポーツ振興
- ◆働く世代・子育て世代へのスポーツ参加の促進
- ◆スポーツ教室、イベントの開催

## (2) スポーツ施設の利用促進・充実

つばきの丘運動公園多目的グラウンド、野球場、テニスコート、弓道場、武道館等のスポーツ施設の利用促進を図り、各々の施設がスポーツ交流拠点としての機能を発揮できるよう、各種スポーツ大会の誘致を行うとともに、様々な広報媒体を活用したスポーツイベントや教室等の情報提供に努めます。また、既存のスポーツ施設の整備・改修、施設のサービス改善と運営管理の向上に努めます。

町民が安全にスポーツを楽しめるよう、スポーツ施設の適正な維持管理に努めるとともに、計画的な改修を図ります。

### 【主な取組】

- ◆スポーツ施設の利用促進・充実
- ◆スポーツ施設の適正な維持管理

## (3) スポーツ指導者の育成・確保

スポーツ推進委員、体育協会、各種スポーツ団体関係者と連携し、指導者の育成に努めるとともに、指導者相互の交流を通じて指導者の技術の向上を図ります。

### 【主な取組】

- ◆スポーツ指導者の育成・確保

## 基本施策 2-5

# 交流活動の推進

### 現状と課題



- 社会経済や文化のグローバル化、情報通信技術の発展等により、外国人を身近に感じ、日常生活においても、かかわる機会が増えてきています。このような中、本町においても、国際感覚を備えた人材の育成に取り組んでいく必要があります。
- 本町では、中学生が国際交流協会の活動に参加し、活躍しています。中学生海外派遣事業においては、治安の悪化や財政面を考慮し、平成28年度より国内派遣事業として実施しています。
- 本町の子どもたちの国際理解を深めるための取組として、外国語指導助手(ALT)を配置しており、小・中学生が国際感覚を身につけるための取組を行っています。
- 地域間交流として、ロボットコンテストでは、県内の中学生、高校生が集まり、それぞれの技術と創造力を発揮しながら、交流が図られています。また、ソフトバレーボール大会においては、近隣市町からの参加もあり、スポーツ交流を通じて、お互いの技を競いあっています。
- 小学生におけるスポーツ教室・団体においては、町内外における交流が盛んに行われており、町外のチームを招いて大会を実施しています。

### 基本方針

グローバル化の流れが進む中、若い世代に国際感覚を養う機会を提供し、多様な文化や価値観を認め合う、多文化共生社会の実現に向けた取組を進めます。

また、スポーツや芸術文化活動、伝統芸能等を通して多様な地域間交流を促進し、地域社会の活性化を図ります。

#### 評価指標

| 指標              | 現状値        | 前期目標値      |
|-----------------|------------|------------|
| 外国語指導助手(ALT)の配置 | 3人(令和元年度)  | 3人(令和6年度)  |
| 国際交流協会会員数       | 31人(令和元年度) | 40人(令和6年度) |

## (1) 国際交流の推進

国際交流協会の活動・研修を通じて、町内企業の外国人従業員の方々と連携し、食事を通じた交流会事業やホームステイ等、町民と一体となった国際交流活動に取り組みます。

保育所、幼稚園、小・中学校に外国語指導助手(ALT)を配置し、英語教育を推進し、国際理解を深めます。

里庄中学校では、全生徒が青少年赤十字に加盟しており、取組を通じて、生徒が世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、世界の人々との友好親善の精神を育成することを目的として、国際交流事業を推進します。

### 【主な取組】

- ◆町民主体の国際交流の事業
- ◆国際理解教育の推進
- ◆国際感覚豊かな人づくりの推進
- ◆国際交流事業の推進

## (2) 地域間交流の推進

(公財)科学振興仁科財団の「ロボットコンテスト」や各種のスポーツ行事等を通じて、人と人との交流、町外との交流を推進します。

スポーツや芸術・文化活動、伝統芸能等を通して相互に交流できる環境づくりを促進するため、体育協会、文化協会等の既存団体の育成・強化を図り、各種交流事業の支援に努めます。

町内外のスポーツ大会やスポーツ交流事業を積極的に促進し、他地域との交流や世代間の交流に努めます。

地域の活性化を図るため、町民主導によるまちづくりやイベント等の多様な交流を促進するとともに、町民の自主的な交流活動の支援に努めます。

### 【主な取組】

- ◆地域間交流の推進
- ◆地域交流団体の育成・強化
- ◆スポーツ交流活動の促進
- ◆文化交流活動の促進